

ほうじゅ、さんりっしやくじ 宝珠山立石寺

登らなければ味わえない感動がそこにあります。



所要時間
 ●せみ塚……20分
 ●仁王門山門……30分
 ●奥之院……40～60分

1 山寺立石寺と根本中堂 山寺は、正しくは宝珠山立石寺といひ、貞観2年(860)清和天皇の勅願によって慈覚大師が開いた、天台宗のお山。正面の大きな建物は、国指定重要文化財の根本中堂である。延文元年(1356)初代山形城主・新渡兼頼が再建した。入母屋造・5間4面の建物で、ブナ材の建築物では日本最古といわれ、天台宗仏教道場の形式がよく保存されている。堂内には、慈覚大師作と伝える木造薬師如来坐像が安置され、伝教大師が比叡山に灯した灯を立石寺に分けたものを、織田信長の焼打で延暦寺を再建したときには逆に立石寺から分けたという、不滅の法灯を拝することができる。

2 対面石 慈覚大師が山寺を開くにあたり、この地方を支配していた狩人警司警三郎とこの大石の上で対面し、仏道を広める根拠地を求めたと伝えられ、狩人をやめたことを喜んだ動物達が警司に感謝して踊ったという伝説のシンボルが、山寺警司塔で奉納される。

3 芭蕉句碑と清和天皇御坐塔 閑さや岩にしみ入る舞の声…元禄2年(1689)、おくのはそ道をたどり、今の7月13日に山寺を訪れた松尾芭蕉の句で、門人たちが嘉永6年(1853)にたてた句碑である。奥に見える宝塔は、山寺を勧願寺とした清和天皇の供養塔で、当山では最も古い石塔である。

4 日枝神社 5月17日に山寺山王祭がおこなわれるところ。右側の大きな碑は、この地に行幸された大正天皇と、貞明皇后の記念碑である。後方の大銀杏は、山形市で一番太いという天然記念物で、慈覚大師お手植えと伝えられ、1000年を超える樹齢といふその下には、高浜虚子・年尾の親子句碑がたっている。

5 山門 右側のお堂は常行金仏堂で、参詣者も自由に修行ができるように、準備されている。頭上の堂は鐘楼で、静夜の招福の鐘として知られる。左側の、鎌倉時代の建立といわれる山門は、開山堂などへの登山口で、大仏殿のある奥之院までの石段は800段を超える。

6 姥堂 この堂の本尊は尊衣婆の石像。ここからは地獄、ここから上が極楽といふ浄土口で、そばの岩清水で心身を清め、新しい着物に着かえて極楽に登り、古い衣服は堂内の尊衣婆に奉納する。一つ一つの石段を登ることによって、欲望や汚れを消滅させ、明るく正しい人間になろうといふもの。左の大きな岩は、笠岩とも笠投石ともいひ、慈覚大師が雨やどしたところとも伝えられる。

7 四寸道 お山の自然にそってつくられたこの参道は、昔からの修行者の道。一番せまいところは約14センチの四寸道で、開山・慈覚大師の足跡をふんで私たちの先祖も子孫も登るところから、親子道とも子孫道ともいわれる。左上にそびえる百丈岩の上に、納経堂や開山堂、展望唯一の五大堂がたっている。

8 せみ塚 閑さや岩にしみ入る舞の声芭蕉翁の句をしたためた塚をこの地に埋めて、石の塚をたてたので、せみ塚といわれている。



根本中堂



俳聖松尾芭蕉



せみ塚

立石寺山門 立石寺宝物殿

比叡山延暦寺の別院として建立。杉木立を障子のように1015段の石段が奥の院まで続き、途中には多くの石碑や石仏、お堂があります。東北有数の雪場として知られ参拝客が後をたちません。

◎ 8:00～17:00 日 023-695-2843(山寺事務所)
 ◎ 大人:300円 中学生:200円 子供:100円(随時)

山寺の仏像、仏具などの文化財を保存、収蔵することを目的として昭和51年に開館。平安様式を取り入れた建物は、歴史館として一般公開されています。

◎ 9:00～17:00 日 023-695-2002(本館)
 ◎ 12月～3月(4月以降休館) ◎ 大人:200円 子供:100円(随時)

山寺後藤美術館 山寺芭蕉記念館

館長の後藤氏が収集した貴重な絵画や彫刻を多数展示。フランス・バルビゾン派の絵画やロダン彫刻の他、ガレ、ドーム等のガラス工芸品を鑑賞できます。

◎ 9:30～17:00(受付終了5分前) 9:30～16:30(受付終了15分前)
 日 023-695-2010 ◎ 毎週月曜日 年末年始 ◎ 大人:800円 子供:400円

芭蕉来訪300年を記念してつくられた記念館で、芭蕉の遺墨をはじめ道筆の作品や「奥の細道」に関する資料を多数展示しています。映像室では芭蕉に関する映画も上映。

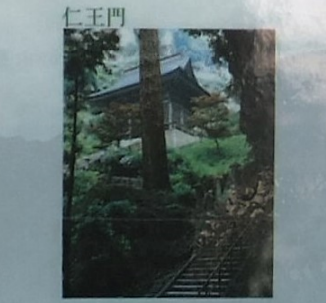
◎ 9:00～16:30 日 023-695-2221 ◎ 不特定(お問い合せください)
 ◎ 大人:400円 高校生以下は無料(随時)

INFORMATION
 観光ガイド(きざはし会) 山寺の名所旧跡をあまりことなく案内してくれます。地元ガイドならではの楽しい話が聞けるかも。
 ガイド料:1回2,000円 日 023-695-2816(山寺観光協会)

9 弥陀洞 ながい・俊月の雨風が直した岩をけずり、阿弥陀如来の姿をつくり出した。1丈6尺(約4.8メートル)の姿から丈六の阿弥陀ともいい、仏のお姿に見ることができる人には、幸福がおとずれるという。

10 仁王門 嘉永元年(1848)に再建されたけやき材の優美な門で、左右に安置された仁王尊像は、運慶の弟子たちの作といわれ、邪心をもつ人は登ってはいけないと、睨みつけている。

11 山内文院 江戸時代までは、12の塔中支院があり、多くの僧が修行に勤んでいた。今は性相院・金樂院・中性院・華嚴院の4つの院が、その面影を残している。



仁王門

12 奥之院と大仏殿 正面右側の古いお堂が奥之院ともいわれる如法堂で、開山・慈覚大師が、中国で修行中に持ち歩いた釈迦如来と多宝如来を本尊とする。石室草庵の写経道場でも、明治5年の再建。左側の大仏殿には、像高5メートルの金色の阿弥陀如来像を安置し、毎日、卒塔婆供養をおこなっている。

13 修行の岩場 正面の岩に巖をかきわけた岩場は、釈迦が峰といひ、今では修行者以外の登山を禁じている。

14 開山堂と五大堂 立石寺を開いた慈覚大師のお堂で、大師の木造の尊像が安置されており、朝夕、食飯と香を供えている。向かって左、岩の上の赤い小さな堂は、写経を納める納経堂で、山内でも最も古い建物である。県指定文化財で、昭和62年に解体修理がおこなわれた。その真下に、貞観6年(864)歿の慈覚大師が眠る入定窟がある。頭上の建物は五大堂といひ、五大明王を祀って天下泰平祈る道場、山寺唯一の展望台でもある。



五大堂